

Vol. 138

2016.9.6

理事長トーク Top Interview

第11回 チーム医療症例検討会 in いわき

医療法人社団 健育会 理事長 竹川節男



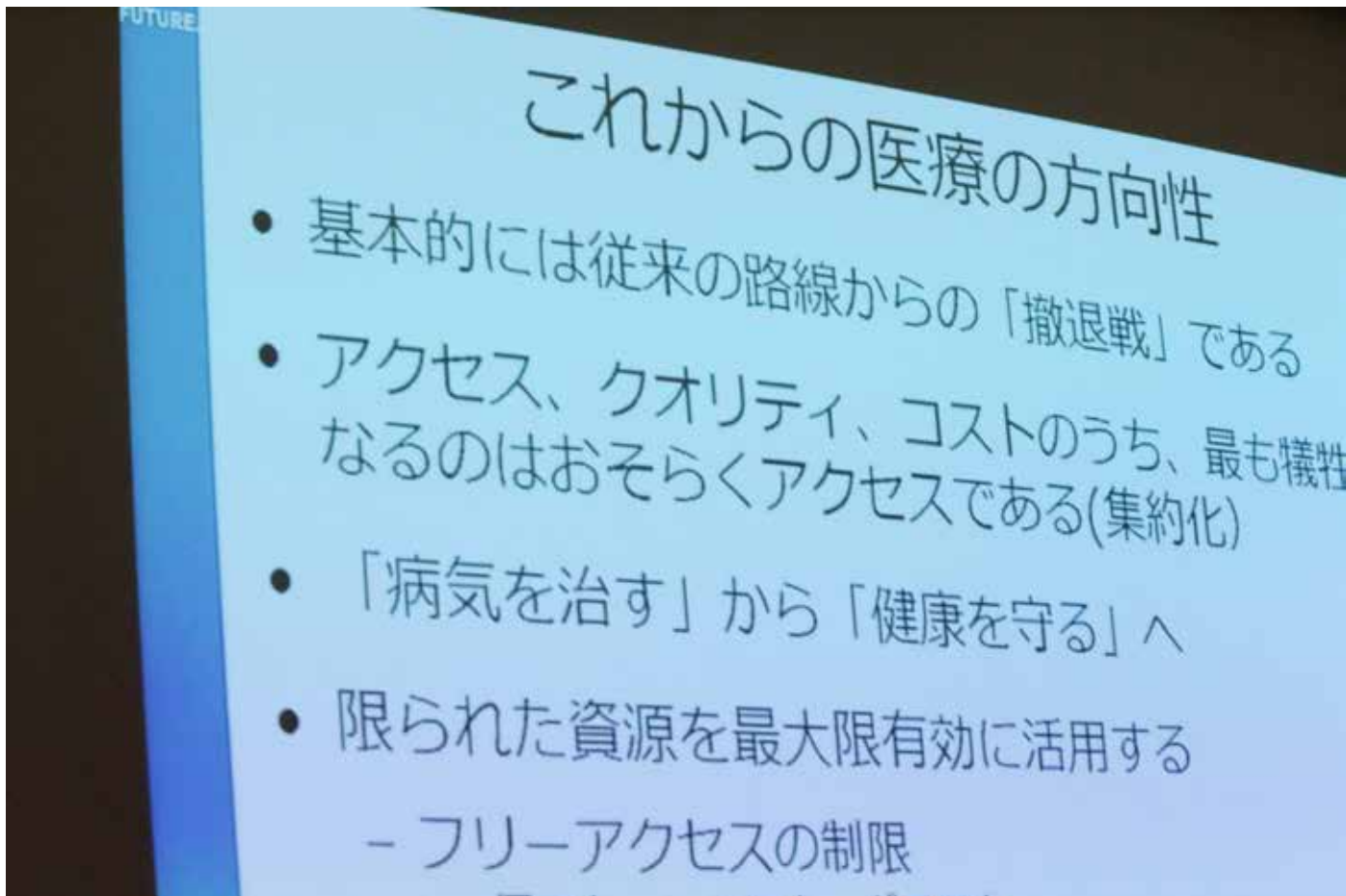
台風の間際に気持ちの良い青空が広がった2016年9月3日（土）第11回目のチーム医療症例検討会が行われました。チーム医療症例検討会は、毎年、各病院持ち回りで幹事を務めており、今回はいわき湯本病院が幹事ということで、いわき市の象徴的な場所であるスパリゾートハワイアンズ「コンベンションホール ラピータ」に職員一同が集まりました。



健育会グループでは様々な研修会を行っていますが、その中でも「チーム医療症例検討会」は最も歴史が古い研修会です。そしてなおかつ、すべての職種が関わる研修会であり、チーム医療を大切にしている健育会らしい研修会だと私は考えています。今回も、各病院・施設から医師、看護師、薬剤師、保健師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護福祉士、歯科衛生士、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、事務など、多職種に渡る約200名の職員がいわきに集いました。

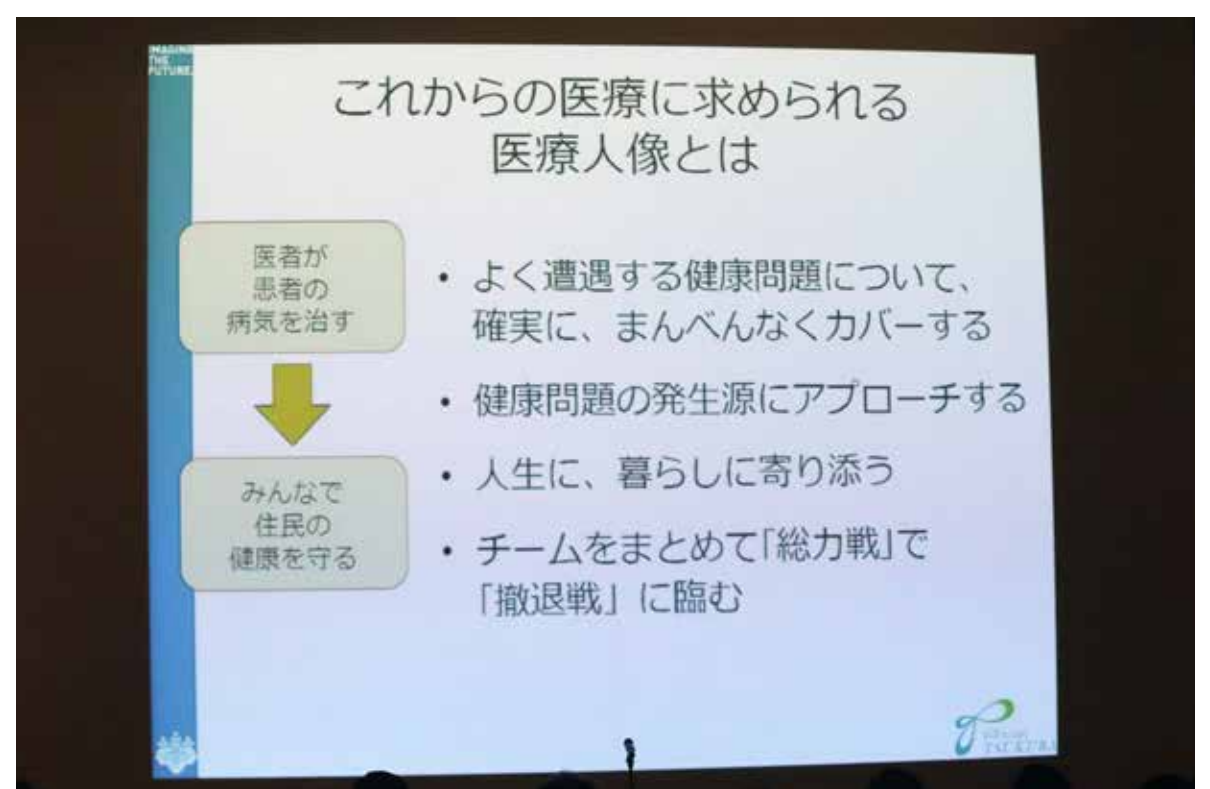


会のはじめには、筑波大学附属病院 横谷 省治 先生を講師としてお招きし、『2025年のその先を見据えた地域包括ケアを考える』という演題で教育講演を賜りました。



私は、地域包括ケアというのは地域医療機関と介護施設、そして行政が密に連絡を取って、その地域の高齢者の方々がいつまでもその人らしく、その地域で暮らしていくことを支える仕組みだと理解しています。

横谷先生からは、「限られた医療資源を最大限に活用するには、専門職の生産性を上げることが必要である」というお話や、「病気を持っている人も病気と共存しながら自分らしく生きがいを持って生活できるようにサポートしていくことの必要性」「病気だけでなく予防にも注力して、医療チームが総力戦で住民の健康を守っていくことが大切」等のお話いただきました。先生のお話を聞き、健育会グループの職員は、それぞれがそれぞれの役割をよく理解し、連携をとって、地域の方々の「その人らしい生活」を支える使命があると再認識しました。



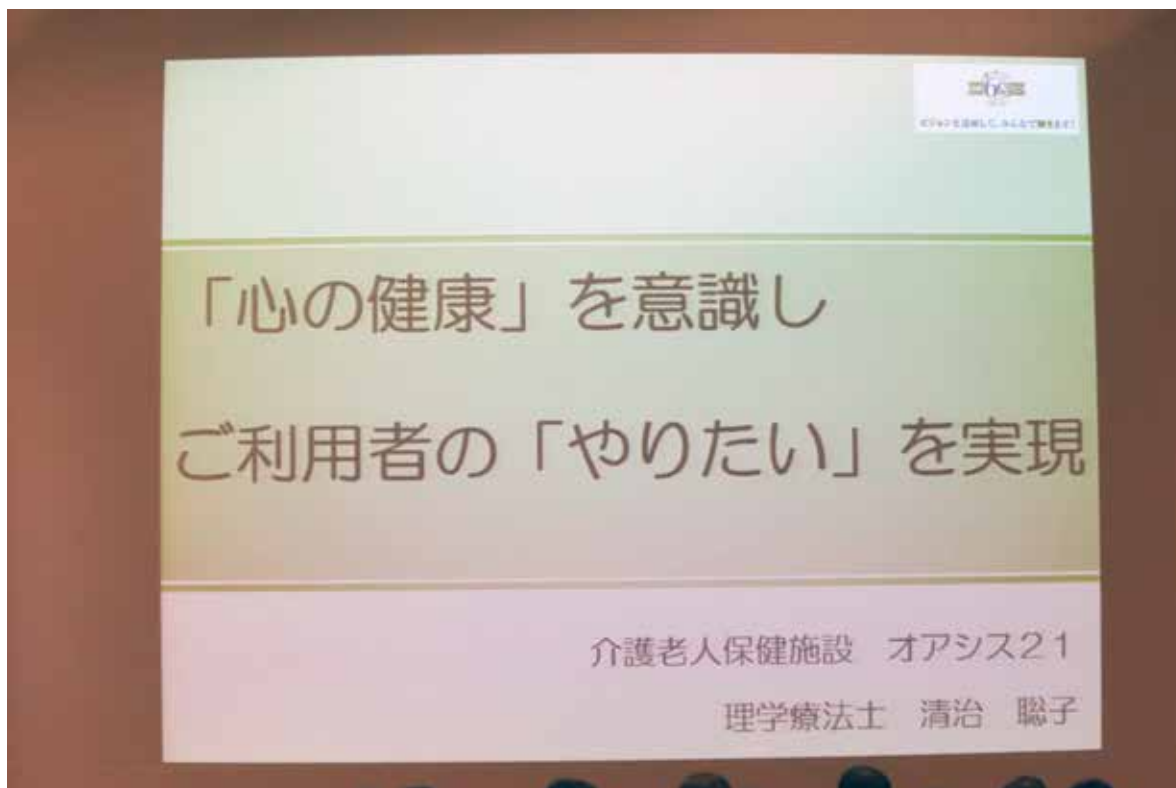
症例検討会では、「介護の部」「医療の部」で各8題、全16題が発表されました。



私から、会の初めに参加している職員に向けて、「すべての演題は、介護はキラキラ介護賞、医療はミラクル賞に私が選出した症例の中から選ばれています。ミラクル賞においてもキラキラ介護賞においても、実は病院・施設によって受賞している数に差があり、複数受賞しているところもある一方、1回しか取れていないところもあります。1回しか取れていない施設は、複数取れている施設の発表をよく聞いてどうして1回しか取れないかということのヒントを得てください。

どちらの賞も、そのキーワードは「チーム医療」です。すぐれたチームワークが患者さん・ご利用者の状態を大きく改善し、素晴らしい成果が得られるものと私は理解しています。チームワークということに焦点を絞り、発表を聞いて欲しいと思います。私としては、選定の際に症例の内容はしっかりと理解しておりますので、発表者の熱意ある姿勢とフロアからの活発な質問に興味を持って拝聴したいと考えています。」という話をしました。

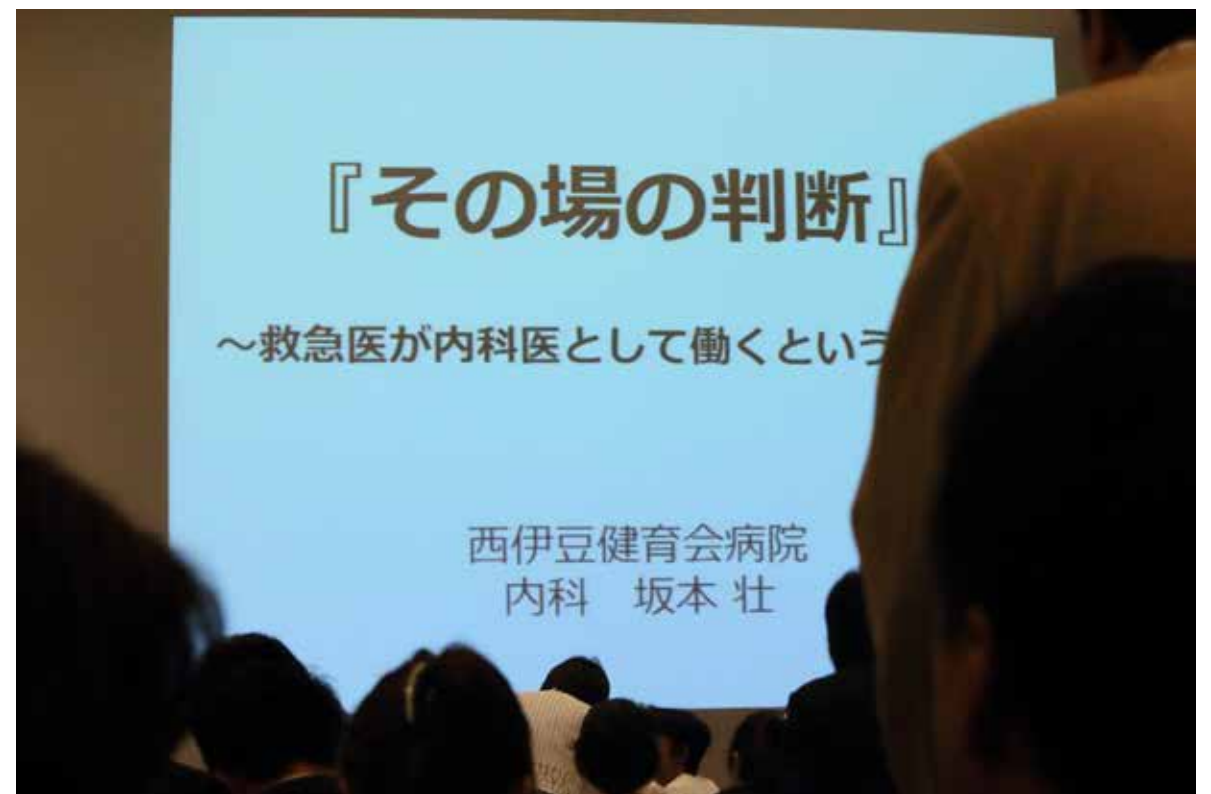




「介護の部」の発表後、座長を務められた淑徳大学短期大学部 健康福祉学科学科長・特任教授 亀山幸吉先生からは、今回の発表を聞いての講評として「リハビリテーション医学で著名な上田 敏先生は、‘リハビリは機能の回復に限定しない、全人間的復権’であるといわれています。今回、そのようなリハビリの本質についてのご発表が聞かれ参考になりました。また、多くのご発表の中で中途障害について、ご本人様の自己受容を促し成果を上げていたと感じています。ご本人様の心の痛みの共有なしに喜びの共有には至りません。そういう意味で、相手の方の痛みを受け止め共有できたことで、喜びの共有に結びつけておられたのだと思います。

また、自立と依存という問題もあります。依存的な状況を自立に向かわせるためには、相当程度の関わり、高いレベルの専門性が必要です。そういう意味においても、大変役立つ事例が発表されました。全体として素晴らしいご発表を伺うことができました。」との講評をいただきました。





「医療の部」の座長を務められたいわき湯本病院院長の小針正人先生からは、すべての演題に対して一言ずつコメントをいただいたのち、「今回発表された症例は、すべてチーム医療の力で対応可能となった症例で、内容につきましても素晴らしかったです。また、プレゼンテーション方法も大変わかりやすく、全体としてレベルアップしてきていると感じました。作品に例えると、すべてが力作でございます。これからも多くの力作が生み出されるよう、みなさんが頑張ってください。」との講評をいただきました。



症例発表会の後は、会場隣にて懇親会が行われました。はじめにスパリゾートハワイアンズのフラガールの皆さんのフラダンスショーが行われ、華やかな雰囲気の中、懇親会がスタートしました。乾杯の挨拶は私が担当し、「ビジョンを達成してみんなで輝きます！」という今年のスローガンを掛け声に、全員で乾杯を行いました。



美味しい食事を楽しんだ後、会の終わりには、今年の幹事であったいわき湯本病院の院長 小針先生から、来年の幹事である花川病院の院長 憲先生に恒例の鍵の受け渡しが行われ、今年のチーム医療症例検討会は終了いたしました。



チーム医療症例検討会も11回を重ね、発表内容はもちろん、スライドの見せ方や職員の発表の姿勢・質疑応答なども進化し、大変うれしく感じました。また、今回多くの症例を聞き、改めて、患者さん・ご利用者ご本人の強い希望や願いを引き出して取り組みを進めることで、ミラクルを起こすことができるのだと感じ、ぜひ今回の学びをすべての病院・施設で生かして欲しいと考えました。そして何より大切なことは、「今年のミラクルは、来年のミラクルではない」ということです。今年発表されたミラクルから学び、来年はその取り組みが普通にできるように取り組んでいくことで、グループ全体が進化していくことができます。ですから、今回参加した職員は、自分の働く病院・施設にてチーム医療症例検討会での学びをまとめて参加できなかった職員にしっかりと伝え、日常の取り組みの中に生かして欲しいと思います。そして来年、花川病院が幹事で行われる第12回チーム医療症例検討会では、さらに進化した発表が行われることを期待しています。